

眞言宗也。俗に比丘寺と呼べり。由來書に云ふ。承應元年
藩士津田伊織母儀爲位牌所建立。其頃寺地堀川讚岐町に
有之處、濕地成に付、正徳四年泉野今の寺地へ移轉仕、地
子立來處、元文三年三百九十七步拜領地に被仰付。とあり。
按ずるに、津田伊織は津田氏の元祖遠江守重久の孫なり。

津田鳳卿撰述する處の高野山定光院大威徳明王像記に云
ふ。家祖遠江守重久不幸繼兄。屬明智氏敗岷山崎。與長
子平藏從數騎。衝圍走高野。匿定光院數日。豊臣秀吉聞
之。令高野檢校無量壽院。速出遠州云々。文祿初應藩聘。
遂貫加賀。慶長中爲大聖寺城守將。時修金昌寺。還金澤府。
草創放生寺。歸依禪宗。至孫盛尙創寶集寺。崇奉密教。吾
一族六人分奉二宗。不誼高野之難とあり。按ずるに、盛
尙は、即ち津田伊織が事なり。伊織の時に眞言の密教に歸
依し、母儀の位牌所として寶集寺を創立せしは、其の寶祖
父遠江守重久が、天正十年山崎合戦後高野山に隠遁して、
一命を全うせし報恩を思ふ故也といへり。

○寶集寺觀音來歴

龜尾記に云ふ。寶集寺の本尊千手觀音は、往古泰澄大師越

前の越智山に於て一つの靈木を得、地藏菩薩・觀世音菩薩・
孔雀明王の三尊の尊像を彫刻し、中堂に安置す。後同國平
泉寺の大聖院一代、彼の三尊中の觀世音菩薩を甚だ信仰せ
り。然る處天正の兵亂に一山分散し、その折から同國鳴鹿
村の何某方へ來る處、子細有つて加賀國河北郡黑津船の本
地堂へ安置せり。然るを黑津船の神職齋藤氏、黑津船の本
社は勿論、兼勤せし神社共に納めある本地佛どもを悉く
取除きたり。其の頃右觀世音の古像をば寶集寺へ移し、本
尊佛となしたるなりといへり。按ずるに、舊藩中に諸神社
の本地等の佛像を取除きたるは何れの頃ならんか。追考す
べし。漸得雜記に載せたる金澤三十三所觀音順禮歌といふ
ものあり。

廿一番寶集寺。とこしへに彌陀の御國は寶集寺やいつもつ
きせぬ事ぞうれしき

右三十三首和歌者。依人所望。取寺號意詠之。從二位中
納言有藤卿門弟某。とあり。

○鳳凰山祇陀寺

曹洞宗也。貞享二年の由來書に云ふ。當寺開基年代不知

最前者永昌院と稱し、當所百姓町に有之。其後小立野へ移
轉、地子地に有之處、御用地に被召上、寛文十一年泉野今
之地へ再轉仕。延寶七年に寺號祇陀寺と改稱。祇陀寺は、
大乘寺三代明峰和尙之弟子大智和尙の開基。とあり。按ず
るに、元祿九年の地子町肝煎裁許附に、祇陀寺上、地町とい
ふ一町を載せたり。祇陀寺の舊寺地なるべけれど、其の地い
まだ詳かならず。三州志來因概覽に云ふ。祇陀寺は昔石川
郡吉野村の寺町と云ふ所にありて、大智禪師その開山也。
富樫昌家の叔父定照居士、大智に歸依し、居士隱居せし時、
其の館の吉野に在りけるを修造して祇陀寺と號し、こゝに
大智を住せしむ。是延元中の事といへり。大智の位牌には、
貞治丙午十二月十日とあり。大智の師明峰も此所に隱居
す。故に明峰の遺墳あり。祇陀寺創造の後、百年を経て祝
融に罹り、其の後越中守山に再興せしを、慶長中金澤八坂
へ遷地し、大安寺と改號し、又故ありて鶴林寺と改稱す。
今の鶴林寺是也。右鶴林寺の改號せし時大乘寺月舟和尙、
大智禪師創立の寺號の廢せん事を痛み、延寶七年大乘寺の
子院永昌院を取立て、鳳凰山祇陀寺の寺號を復古し、富樫

家善等の寄附狀其の他の什物共を鶴林寺より請取りたり。
天明六年覺源寺破却の頃、彼の堂宇を引移して再建すとい
ふ。當寺は中絶の寺號を再興せし新寺なるが故に、檀家も
なく、漸く些少の祠堂金の利益を以て相續し來る處、明治
廢藩置縣の後益々、寺産を失ひ、永續の見込もなく、彼の堂
宇を毀ちて小庵を建て、僅に寺號を存するのみ。

○開祖大智禪師傳

扶桑洞上聯燈錄卷二に云ふ。加州獅子山祇陀寺大智禪師。
肥後州宇土郡長崎村人也。童穉以嬉戲作佛事。七歲就父
請出家。父不奪其志。携投妻嚴禪師於大慈。嚴一見器之。
手把果卓餽頭與師。與次問曰。汝名甚麼。師曰萬十。嚴曰
萬十喫餽頭時如何。蓋以語音相近戲之也。師曰如大蛇吞
小蛇。嚴曰。汝有小智麼。宜命小智。師不諾。由是大智之
名聽人耳云々。二十五歲附舶入元。當仁宗延祐元年也云
々。久之思歸。英宗詔駕本國船。師進偈曰。萬里北朝宣玉
照。三山東海送歸船。皇恩至厚將何報。一炷心香祝萬年。
歸至海中。忽石尤起。吹入高麗。船破。以偈呈王。有曠却
漂流生死海。今朝更被業風吹之句。王乃命浮舟相送。著加